

会議録

案 件	令和5年度 第2回子ども・子育て会議について		
日 時	令和5年11月17日（金）13:30～15:45	開 催 場 所	本庁舎4階会議室1ABC
出席者	【子ども・子育て会議委員】 永田会長 他13名 【事務局】 沢崎こども希望部長 他18名		
作成者	鈴木真帆	資 料	・子ども・子育て会議 会議資料（次第～）
概 要			
<p>1 開会（大石課長）</p> <p>欠席者6名により、委員の過半数以上の出席により会議の成立（14人／20人） 労働福祉協議会会長交代に伴い委員変更 西尾委員→太田治委員（10/1～）</p> <p>2 会長挨拶（永田会長）</p> <p>永田会長より挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p>① こども・若者の意見の反映について（資料1-①） ② 掛川市こども計画の実態調査について（資料1-②） ③ 令和5年度実施スケジュール（資料1-③） 事務局より報告</p> <p style="text-align: center;">～御意見、質疑・応答～</p> <p>（委員） 資料1-①に記載の「意見反映（Voice）」という部分について、こどもの権利を語るときに、国連のこどもの委員会や国会委の答弁でも「こどもの意見（Voice）」というのは言語化されたものを言うのではないとされている。言語で表出しないと権利を主張できないということではなく、「Voice」や「Opinion」というよりは「Views」だという答弁がされている。乳幼児のような言語で表現がうまくできない者であっても、大人が雰囲気や仕草を読み取って、反映させるという仕組みづくりが重要である。そのため、「Voice」という表現だけでは少し語弊があるかなと感じる。</p> <p>4 協議事項（意見交換）</p> <p>掛川市の子ども・子育てについて</p> <p>① 子ども・子育て支援事業計画主要事業の実施状況について（資料2-①）</p> <p>【人材不足について】</p> <p>（委員） こども園の運営をしている中で感じるのは人材不足である。市でも保育士確保対策として事業を実施してくれているが、簡単に解決できる問題でないと感じている。学生だけでなく、一般の方を含めて今までやってこなかったようなことをやらないと難しいのではないかと感じる。</p>			

(委員)

Q 掛川市では県で実施しているような子育て支援員の養成は実施しているのか？

A 市単独では実施していない。県の子育て支援員研修には子育て支援センターや学童の職員が参加している。(事務局)

保育士になる前段階として、そういった方の養成に力を入れることは保育士の人材を確保することにつながると思うので、ぜひ力を入れてほしい。

【多様な家庭への支援について】

(委員)

Q 掛川市は他市と比較して発達相談支援事業所が少ない。社協でも未就園や発達に不安を抱える子へのフォローを実施しているが、セルフプランが多い中だと、学童期に入ってからや就労に向けての情報が中々入らず、不安な保護者が多い。

また、巡回支援や訪問支援の強化に関する記述がされているが、園での環境整備はおおむね整ってきているが、学校への支援の入りにくさが課題と感じる。市としてこれらに対する考えを伺いたい。

A まず、セルフプランの件について、市としても大変大きな問題と捉えている。市主催で相談支援員向けの研修会を実施している。プランには大人向けと子ども向けの2つがあり、子ども向けのプランを作ることができる方が掛川市は不足している現状がある。そのため、大人のプランが作れる方たちに子どものプランの立て方の研修を実施している。

次に保育所等訪問事業について、学校についても訪問や巡回相談ができる制度である。初めてのことで抵抗があって中々進まないケースが多いが、今後学校にも浸透していくように引き続き、丁寧に支援をしていきたい。(事務局)

(委員)

およそ半数以上のお子さんがセルフプランという現状があるので、ぜひ取り組みを継続して進めてほしい。また、ひきこもり支援についても同様のことが言える。伴走者がいるといないのでは、全然違う。子どものころに伴走者がいれば、家から出ることができたのかなと思う子たちもたくさんいると感じる。

(委員)

Q 重層的支援体制の庁内の体制がどうなっているのか。ワンストップや入口から出口までの支援だとかよく言われているが、そういった体制の整備は市民にとってすごくメリットになると思うので、子どもの相談支援体制の現状を伺いたい。

また、外国人支援の対策について伺いたい。

A 福祉課や社協が中心となって関係機関を集めた研修等をしながら、掛川市にあった体制整備の構築に向けて進めているところ。現状の相談支援体制としては担当部局間で連携を取りながら、個別に進めていると聞いている。地域福祉計画とともに今後も体制整備を進めていきたい。また、子どもの相談(0~18歳)に関してはこども希望課こども家庭総合支援室で相談を受けている。必要に応じて関係課と連携しながら対応している。

続いて、外国籍の方への支援について、市内の園にはおよそ100名の外国籍の児童がいる。国籍もブラジル、フィリピン、ベトナムと様々である。市では外国人支援員を2名配置しており、園の要望に応じて通訳等の派遣をしている。インクルーシブの考えや、コロナが5類に移行されたことを考慮すると、今後も外国籍の児童は増えていくことが予想されるので、状況に応じて支援員を増やす等の対策を検討していきたい。(事務局)

(委員)

外国籍の方への支援について、社協で療育委支援の訪問で外国籍の家庭へ訪問することがある。健康医療課でも健診などでそういった家庭への支援は丁寧にしているが、就園後、就学後に支

援が薄くなってしまおうと感ずるので、そのあたりの支援も強化して欲しい。

(委員)

めばえにも外国籍の方はいるが、発達の説明をする際に専門用語が通じにくいことがある。また、就学支援の専門調査の際に通訳が必要で保護者が負担するというケースがあって、そういった援助があればと感ずる。

(事務局)

そのケースを通じて庁内でも改めて外国籍の支援について検討している。今回は就学支援の専門調査というケースであったが、通訳の問題は発達に限らず様々な場面で課題となると考えられるため、慎重に検討していきたい。

また、通訳の派遣がない現状のため、知り合いの方をお願いして謝礼を払うといったケースが見られるが、答えに近いことを教えてしまったり、汲み取って通訳してしまったりするケースもゼロではないと思う。特別支援学校に行くかの専門調査はすごく大事な調査になるので、公正な立場で検査の知識のある方の通訳の必要性があるのではないかと感ずている。今後市でも通訳の調整ができるように検討していきたい。(事務局)

② 子どもの貧困対策計画個別施策の実施状況について (資料2-②)

(委員)

児童館に来る生活が困窮している家庭の子は、服の汚れやシャンプーを明らかにしていない様子がある。また、コロナ前は1日通して開放していたので、朝から夕方までお弁当を持たずに来ている子がいた。児童館ではその子たちへの直接の支援はできないので、必要に応じて市と連携しながら支援を進めていた。しかし、コロナ後になるとそういった子たちの来館はなくなっていて、困り感の強い子どもたちが出て来られなくなっているのではと心配している。

(事務局)

貧困で親が一生懸命働いている結果、子どもに気を配れなかったり、貧困だけじゃなく保護者の健康問題だったり、本当に1つで解決できないと日頃から感ずている。今年度は実際に児童館に来ている子で気になる子を市に御相談いただいて継続的な支援につながったケースがあった。支援者のちょっとした気づきで救われるケースもあるので、気軽に相談していただきたい。

(委員)

園でもネグレクトぎみな家庭はいくつかある。乳幼児は自分がネグレクトなのかかわからないし、困り感を発信することもできないため、本人の普段の様子や親の様子をよく観察するようにしている。就学前は生活の基盤となる園である程度のフォローをすることができるが、就学前のお子さんを見てみると、小学校に上がった後、朝起きて学校に行けるのかな、と不安になる家庭がある。そういった家庭をみていると、お母さんが自立していないケースもある。親への支援、配慮等を全ての関係機関が連携して進めていかなければならないと思う。

(委員)

親支援、入口と出口の話が先程上がったが、そこをしっかりとやっていただきたいと思う。

また、回答のところに高校生を対象としたプレコンセプションケアの実施が書かれている。私自身初めて聞いたものだったが、先ほどの人材不足と関連させて保育現場の体験とかができればいいと思う。もう少し子どもに関する政策はこども希望部に集約ができれば、重複しないように施策を進めていけると感ずる。

(事務局)

高校生の保育体験は現在も横須賀高校や掛川東高校などで実施している。市としても、高校生の早い段階から、将来の結婚や出産を思い浮かべられるような取組を進めていきたい。また、組織については、こども計画を策定していくにあたってある程度の組織再編は必要と考えているが、全てを1つにまとめることは難しいと考えている。こども施策を考えていくうえで、まちづくりや居場所の確保といった問題も出てくる。その上で、職員1人1人の課題解決に向けた連携の意識や発想の転換というのは必要と感ずている。

(委員)

国を横目に進めていくことは悪くはないが、全国に先駆けて進めた幼保園の様に市独自で行っていき、そういった発想がこども施策のためには大切なんじゃないかと感じる。

(事務局)

幼保園、それからこども園化整備が完結し、これからはソフト事業に力を入れていきたい。先程話のあった親支援を含めて、ニーズ調査をする中で掛川市に必要な施策を考えていきたい。

(委員)

ネグレクトに関連して、子どもの早期発見早期対応リーフレット、気づきのリーフレットというのは掛川市内の園全てにあるのか？また、市外の園で働いていて、掛川市のお子さんが通園しているが、そういった家庭にも届いているのか？

(事務局)

配布は市内の園には全て配布している。御意見の通り、市外の園に通う子にも情報が届くように市外の関連施設への配布を進めていく。

(委員)

卒園前に市外に転出して、転入処理は済んでいないために転出地でサービスが受けられず、5月になってやっと学校に行けるようになったというケースがあった。もっと市町で連携が取れていればこういったケースは防げるのではないかと感じる。

③ 子ども・子育てについて (資料2-③)

【環境整備について】

(委員)

佐東地区に在住、小1の子どもがいるが、近くに公園がない。放課後は親の送迎で友達の家で遊ぶということはあるが、もう少し、子どもだけで遊べる場所があれば子どもたちの遊びの楽しさも広がってくるのではと感じる。

(事務局)

公園の関係は様々なところから御意見をいただいている。たまり～なや大東のコミュニティ公園の改修予定はあるが、様々な意見を聞きながら今後も検討していきたい。

また、公園に限らず国ではこども1人につき2か所の居場所の確保が求められている。屋外に限らず、屋内も含めてにはなるが、こどもが歩いて行ける範囲に居場所の確保、地域で子どもを見ていけるような体制の整備を検討していきたい。

(委員)

児童館でも小学生以上は子どもだけで利用することができるが、来るのはやはり近所の子に偏る。一方で、移動児童館という事業をやっていて、地域の民生委員・児童委員の方にも協力をいただきながら、異年齢の交流なども実施している。そこの保護者の声でも子どもだけで行ける距離にそういった施設があるとありがたいという意見をもらう。地区のサロンやサークルはあるが、未就園の子を対象にしていることが多く、幼児以上の遊び場もあればいいと思う。また、人員が足りれば、移動児童館も近くの公民館等を借りながらできればと思うが、人材不足があり、難しい現状がある。

(委員)

全体的に他市町に比べ、児童館等の老朽化を感じる。元々、車がないと行く手段がないところなので、利用料金が多少かかっても市外のキレイなところに行くという親子の話をよく聞く。すぐに整備は難しいことであっても、そういった要望が多いということは発信していきたい。また、そういった大きな施設とは別に居場所は歩いていける距離に整備できるよう進めていきたいが、これも人材不足が課題となっている。

【親への支援】

(委員)

家庭の在り方が多様化する中で、親への養育力を含めて、相談者側に行政が一定の到達ラインを設けることで、そこまで伸びてくる家庭があると思う。もちろん当てはまらない家庭も多くあるのが現状で、多様化や価値観が変わる中で、子どもへの支援だけではなくて家族への支援が必要な家庭があると感じる。子ども・子育てにおいて、日常生活支援、家事支援みたいところが間接的に子どもへの支援につながることは大いにあると思う。

【学校について】

(委員)

学校再編で地区に学校がなくなってしまうのではと思っている方も結構いる。地区には学校は欲しいが、全体数が少なく1クラス編成の学校もある。やはり、教育的な観点からすると複数クラスで学んでほしいという保護者も多い。また、すごく遠い距離を歩いて登下校している子を見ると、事故や事件等に巻き込まれないか心配になる。

(事務局)

学校再編計画について、パブリックコメントでいただいた意見への回答をホームページにて公開している。学区についても再編計画と併せて今後検討していく。

④ 子ども・若者について (資料2-④)

(委員)

今のこどもたちは、「自分の時間」を重視しているという印象がある。結婚や子育てといった家庭を持つことでその大切な時間がなくなるリスクを選ばない人が増えているのではないかと思う。こどもの魅力を小さいころからの教育で地道に進めていくしかないと思う。また、掛川市の少子化対策としては、大学等で市外、県外へ出た若者が、また掛川市へ戻ってきたいと思えるような魅力発信(経済的支援や子育てしやすいまちの整備)が必要だと感じる。

(事務局)

県が中心となって作ったマッチングシステムがあり、各市町は協議会の構成員となっている。また、所得制限はあるものの、新婚世帯向けの経済的支援制度を実施している。大須賀の醤油店で婚活イベント等も先日開催された。行政としてもできることを進めているところであるが、最終的には個人の価値観によるものであると考えている。学生時代からの乳幼児との交流や教育はとても重要と捉えている。スマホの子育てに関するネガティブな情報ばかりが先行している印象もある。実際に子どもとふれあったり、子育てママの話を聞いたりする中で、魅力を感じていてもらいたい。

(委員)

児童館で高校生と赤ちゃんのふれあい事業を実施しているが、アンケート結果をみると、将来について「自分の時間を大切にしたい」「経済的な不安がある」「パートナーと一生暮らせる自信がない」といった意見がここ数年出てくるようになった。また、お母さんへのインタビューでも「子育てで大変なことは?」「陣痛はどのくらい痛い?」「産後うつにならないためには?」といったネガティブな内容の質問が多い。SNSの普及でそういったキーワードだけが頭に入っていて、結婚や子育てに対するマイナスのイメージを持つ学生が多いという印象がある。

(委員)

高校3年生の娘がいるが、その友達に聞いても大半が、「結婚しない」「子どもは産まない」と言う。受験前で、奨学金の話や将来の経済的不安が現実的になってきていることが影響していると感じる。高校生が保育施設にもっと気軽に遊びに来れるような環境ができれば、もう少し子どもに対する思いみたいなものが変わってくるのではないかと思う。国は経済的支援をしていないわけではないが、奨学金も30歳~40歳まで毎月支払っていると、理想のこどもの数と実際との乖離も起きていると思う。

(委員)

昔より、個を尊重するような教育にシフトしている印象。集団で何かをすとか、人に合わせるとか、順応するといった能力が弱い子が増えていると感じる。

(委員)

高校生のふれあい事業を主任児童委員も携わっているが、参加した高校生は、最初は硬い表情でも赤ちゃんを見た瞬間にパッと明るい表情に変わっていた。直接、子どもに関わる機会はとても大切だと思う。また、保育士についてもやめた保育士の話を聞いても「2度と保育の職につきたくない」という方もいたり、昔より個を大事にする環境で保育士の負担は大きくなったりして、人材不足解消は難しい課題だと思う。

(委員)

ハローワークに来る保育士も再就職で別の園にとは中々ならない現状がある。しかし、中高生のインターンシップを行うと、保育園での体験は人気である。インターンシップを通じて、養成校へ進む学生を少しでも増やしていくことが大切だと感じる。

(委員)

30年前とサラリーマンの平均収入はほとんど変わっていないのに、物価は1.5倍くらい上昇している。若者が夢を持ってない、夢には不安がつきもの、これが日本のここ30年である。これという得策はないから、難しい問題。掛川市で思い切ったことをして、夢がある！と若者に感じてもらうのも一つの手ではないかと思う。また、保育士不足の中で、園運営としては、保育職がいかに尊く、魅力のある素敵な仕事だということかを確かめ合う時間を設けている。それが、現場で働く保育士のモチベーションに繋がればと思っている。保育士の価値を高めていくことが人材不足の解消に重要と捉えている。

(委員)

園へ実習に中高生が来るが、子どもたちが思い描いていた保育士と実際の現場の乖離があり、戸惑う子どももいる。保育養成校へ進学してもいざ就職となったときに、地元の掛川ではなくて、給料が高かったり、待遇の良い都会へ行ったりしてしまう子もいると聞く。実際常勤で働いている保育士さんを見ると、夜遅くまで残っていたり、保護者支援も大変だったりする様子が見られる。少しでも負担を減らせるように保育士資格がなくてもできる仕事をできるだけ事務員や保育補助等で補填できればと思う。保育士を助ける思い切った政策が欲しい。

(委員)

保育士の県外流出について、都会の方が、給料が高くて、様々な魅力的な特典があるのは事実。でも、保育士の使い捨てというイメージ。だとしたら、掛川市は一人一人をすごく大切にしてくれる、長く働きたいと思うといった魅力発信をしていくべき。中小企業でも同じことがいえる。国の方針や県がこう言っていると行政は言うが、掛川市の施策は掛川市独自の魅力を入れていかないとこの市町も全く同じになる、それでは掛川市が選ばれるまちにはなれない。そうした魅力が1人や2人でも響いて、このまちで働く若者が増えれば十分だと思う。

幼保園の時から、国に先駆けてやってきた実績が掛川市にはある。「不可能」とネガティブなスタートをするのではなく、「なにができるのか」「こうしてみよう！」とポジティブに施策を考え、進めていっていただきたい。それが掛川市にはできると思っている。

5 その他

① 焼津市と静岡福祉大学包括連携事業

永田会長より紹介

② スケジュール

第3回 令和5年12月25日(月) 13:30~16:00 掛川市役所4階会議室

第4回 令和6年2月9日(金) 13:15~15:15 掛川市役所4階会議室

6 閉 会